

平成30年10月23日(火)

イワコー

バスケットボール部の部活動の初めには、全員でイワコーの大きな声掛けがある。これは昔から変わっていない。放課後南体育館からこの声が聞こえると身が引き締まる。

翻って、本校応援団の所作は、いくつか大きな変遷を遂げてきている。フレイフレイの抑揚は、前の時代にはなかったものであり、いつからだれが変えたのかもはっきりしないし、イワキヤーと手の形を三角にしてメガホンのように声を出した姿は今はない。

伝統は変遷するものである。昔のやり方を押し付けようとは思わない。

ただし、その根底に流れる思想についてはうるさくこだわっている。形式だけの押し付けであったり、人の気持ちを考えない姿には大きく抵抗を感じる。長いものには巻かれろという考え方からは大きく逸脱していた高校時代だった。その反発力が核力として自分を支えていたので、どのような在り方としても今の在り方を一度肯定してから後、なぜそうなのかをもう一度考えていこうとしている。

自分への説明責任が自分にはある。それでも、熱力学第二の法則エントロピーは増大するので、分かり切った形でずっと続くことはあり得ないとも覚悟している。

全国大会優勝の経験があるウエイト・リフティング部は今はない。替わって新しい同好会もできている。

生徒会の決まりでその時代の生徒会を取り仕切っていけばよい。生徒会は、その時代の生徒のための生徒会なのだから。

逆に、新しい生徒会を創造することも必要だ。生徒会の仕事は、自分も経験したけれど、あれこれやりたいこととやらなければならないことと、生徒会全体のこととある部署のことと、様々なことを並行して進めていかなければならない神経を使う仕事である。

憶するな、生徒会執行部諸君。一つ一つ積み重なる仕事を意識しながら思う存分やっつけていいのではないかとひそかに陰ながら応援しておりますぞ。